

高崎市文化財調査報告書 第237集

新 後 閑 遺 跡

—— マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 ——

2009年3月

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書 第237集

しん ごと かん
新 後 閑 遺 跡

—— マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 ——




2009年3月

高崎市教育委員会

例 言

1. 本書は、群馬県高崎市新後閑町4番23に所在する新後閑遺跡(市遺跡番号424)の発掘調査報告書である。
2. 調査は、マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として、高崎市教育委員会文化財保護課の指導・監督のもと、村岡浩(株式会社レオパレス21)の委託を受けた技研測量設計株式会社が実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 田口一郎 須田奈保子 角田真也
技研測量設計株式会社 櫻井和也(現地調査) 宇佐美義春(整理作業)
4. 発掘調査は、平成20年8月5日より9月12日まで実施した。調査面積は約189.8㎡である。
5. 本書の編集、及び「I 調査に至る経緯」は高崎市教育委員会が行い、他の執筆は、櫻井原案のもと宇佐美が行った。
6. 本書の挿図図版のうち、遺物以外はデジタル処理・編集によるものであり、技研測量設計株式会社・土屋一未が担当した。
7. 調査に関わる記録図面・写真・遺物等の資料は、高崎市教育委員会が保管している。本遺跡の調査番号は「424」であり、調査記録類、遺物注記で明記した。
8. 発掘調査、報告書作成にあたり、とくに遺物に関しては中村岳彦(技研測量設計株式会社)、瀬田哲夫(湘南遺跡調査会)両氏のご協力・ご助言を賜った。記して謝意を表します。
9. 発掘調査参加者は下記の通りである。(50音順、敬称略)
大澤昭雄 鎌田裕義 神山青示 栗原静江 桑原和子 小杉君代 高橋洋子 松本嘉久治

凡 例

1. 本書で使用した地図(第1図)は、国土地理院発行「高崎 1/25,000」を使用した。
2. 全体図・遺構図の方位は「座標北」で、国家座標第IX系を使用している。
3. 各挿図の縮尺は、それぞれに付してある。
4. 土層の色調は、財団法人・日本色彩研究所監修「新版 標準土色帖」によった。
5. 本書における各テフラ表記は、下記の通りである。
As-C 浅間Cテフラ(推定3世紀後葉降下)
As-B 浅間Bテフラ(推定1108年降下)
As-A 浅間Aテフラ(1783年降下)
6. 遺構略称は以下の通りである。
SI: 竪穴住居跡 SB: 掘立柱建物跡 SK: 土坑 SD: 溝 SE: 井戸
P: ピット・柱穴 SX: 性格不明遺構 K: 攪乱
7. 遺構図中の遺物表記は以下の通りである。
○: 土師器 ●: 須恵器 △: 石
8. 遺構図中の網掛けは以下の通りである。
: 焼土・赤化範囲 : 灰範囲 : 電線部構築土
9. 表中の計測値では、()は現存値、[]は復元値を示す。

目次

例言・凡例

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の立地と環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	3
IV 基本層序	3
V 検出された遺構と遺物	4
1 竪穴住居跡	4
2 掘立柱建物跡	14
3 土坑	14
4 井戸	14
5 溝	14
6 ビット	18
7 性格不明遺構	18
8 包含層出土遺物	18
VI まとめ	21

写真図版

報告書抄録

表目次

第1表 土坑一覧表

第2・3表 ビット一覧表(1X2)

第4・5表 出土土器観察表(1X2)

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡	2	第11図 10・11号住居跡、出土遺物	12
第2図 基本層序模式図	3	第12図 12・14号住居跡	13
第3図 遺跡全体図	4	第13図 12・14号住居跡出土遺物	14
第4図 1号住居跡、出土遺物	5	第14図 1号掘立柱建物跡	14
第5図 2号住居跡、出土遺物	6	第15図 土坑	15
第6図 3・4・5号住居跡、出土遺物	7	第16図 井戸・溝	16
第7図 6号住居跡、出土遺物	9	第17図 溝・ビット・包含層出土遺物	16
第8図 7号住居跡	9	第18図 性格不明遺構(SX-1)、出土遺物	17
第9図 8・9号住居跡	10	第19図 時期別遺構分布図	21
第10図 8号住居跡	11		

図版目次

PL.1 遺跡全景 2・3・10・11号住居跡周辺	
PL.2 1号住居跡全景 1号住居跡電全景 2号住居跡全景 2号住居跡電全景 3号住居跡全景 3号住居跡電全景 6号住居跡全景 6号住居跡電全景	
PL.3 8号住居跡全景 8号住居跡電全景 9号住居跡全景 10号住居跡全景 12・14号住居跡全景 11号住居跡全景 14号住居跡全景 1号溝全景	
PL.4 1号掘立柱建物跡 1号土坑 2号土坑 3号土坑 4号土坑 井戸(掘出土状況) 井戸(土層断面) 26号ビット 性格不明遺構(SX-1号跡)	
PL.5 1号住居跡1・2 2号住居跡1・2・3・4 3号住居跡1・2・3・4 8号住居跡1・2 10号住居跡1 11号住居跡1・3 14号住居跡1・2・3 SX-1、1・2・3・4	
PL.6 SX-1、5・6・7・8・9・10 SD-1 P-26 包含層3・4・5 SX-1出土土器師環	

I 調査に至る経緯

平成20年4月、村岡浩氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に共同住宅建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地が弥生～中近世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財との調整が必要な旨を回答した。

同年4月9日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年5月8日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳～平安時代の遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定地の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条第1項の規定による届出に対する回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、技研測量設計株式会社に委託して実施することとなり、平成20年8月1日付けで高崎市長・事業者・技研測量設計の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成20年8月5日付けで事業者と技研測量設計の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 調査の方法と経過

表土は、試掘調査の結果をふまえ、遺構確認面まで重機で掘削する。遺構調査に関しては、重複関係確認の上で、遺構単位での調査、遺構廃絶時から構築時に至る各段階を見極めながらの調査に努めた。全体の土層観察用のベルトは4分割ないし2分割とし、電は「十」字の分割を原則とし、必要に応じて「キ」の字の分割を考慮した。遺構平面図の作成は、トータルステーションによる地上測量で行い、土層断面図は手実測である。縮尺は、遺構平面図・土層断面図で1/20、電は1/10を原則とした。

発掘調査は、平成20年8月5日より開始した。表土掘削準備段階を経て、8月7日から8日まで重機による表土掘削と、人力による遺構確認を進める中、8月11日に基準点・水準点測量。この段階では、しかし遺構確認や遺構の重複関係を把握することが難しく、8月18日に再度重機による掘削を行った。遺構掘削・記録は、8月19日より本格的に開始し、9月上旬には大半の遺構調査を終えた。この中で、重複関係の著しい住居跡群の平面図に関しては、随時平板測量を行い、掘削作業の遅滞を回避することにした。9月10日遺跡全景撮影、9月11日地上測量による全体図作成、9月12日機材等の撤収を行い、現地調査を終えた。

報告書作成作業は、現地調査終了後、遺物に関しては洗浄、注記、接合・復元、実測・トレス、組み版、写真撮影、遺構図に関しては、修正、デジタルトレス、デジタル組み版と進め、その後原簿執筆、校正のかたわら納品準備を行い、3月31日までに全ての作業を終えた。

III 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

本遺跡は、JR高崎駅の南方約1.2kmに位置する。高崎の地形は、北西から南東に向かって流れる



- | | | |
|---------------|-----------------|------------|
| 1 新後園遺跡 | 22 新後園寺遺 | 43 舟橋 |
| 2 高崎城Ⅲ・Ⅳ | 23 城南小学校校庭 | 44 上佐野舟橋Ⅱ |
| 3 高崎城Ⅴ・Ⅵ | 24 和用下之城 | 45 上佐野舟橋Ⅰ |
| 4 浅間山古墳 (円墳) | 25 ト之城村西 | 46 上佐野舟橋田 |
| 5 高崎城Ⅶ | 26 ト之城村北 | 47 小祝神社 |
| 6 額歌神社古墳 (円墳) | 27 ト之城村南Ⅱ | 48 天皇塚古墳 |
| 7 竜見町 | 28 ト之城村東 | 49 千人塚古墳 |
| 8 高岡東沖・村前 | 29 ト之城村南Ⅰ | 50 石原庵田 |
| 9 高岡珠村 | 30 倉賀野上稲荷前庭 | 51 三尾塚古墳 |
| 10・11 高岡村前 | 31 安楽寺古墳 | 52 ボウズ山古墳 |
| 12 下中京早濠場 | 32・33 倉賀野方福寺Ⅰ・Ⅱ | 53 石原稲新山古墳 |
| 13 ト中京辻家跡Ⅱ | 34 紫白山古墳 | 54 寺尾中倉 |
| 14 高崎城馬場 | 35 大山古墳 | 55 石原跡辺団地 |
| 15 越後塚古墳 (方円) | 36 人輪巻古墳 (方円) | 56 鏡辺 |
| 16 下中井糸里 | 37 小輪巻古墳 (方円) | 57 桜塚古墳 |
| 17 和田下之城 | 38 浅間山古墳 (方円) | |
| 18 双葉町Ⅰ | 39 下佐野Ⅱ | |
| 19 上佐野橋越 | 40 下佐野Ⅰ | |
| 20 和田多中 | 41 麻千塚古墳 | |
| 21 新後園庄敷 | 42 瀬山古墳 | |



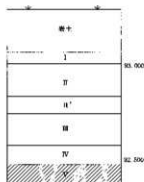
第1図 遺跡の位置と周辺遺跡

鳥川を境に南西部と北東部に大別される。南西部は、南方の鍋川との間に形成された台地・丘陵地帯で、縄文時代以降の集落や古墳が営まれている。北東部は、「前橋・高崎台地」で、現在高崎市街地として急速な発展を遂げているが、なお多くの水田地帯を擁している。この「前橋・高崎台地」は、東の赤城山と西の榛名山との山麓を南流する利根川の扇端部に広がる台地で、主として微高地と後背湿地とに区分され、微高地には縄文時代から中近世に亘る集落跡や古墳、館跡が立地し、後背湿地には水田跡などの生産遺跡が、今日まで続く水田下にも検出される。

2 歴史的環境

本遺跡の周辺では、市街地区の再開発に伴って遺跡の発見例は増加しているものの、旧石器時代の遺跡は限定的である。縄文時代では、高崎城IX遺跡、城南小学校校庭遺跡(23)などがあるが、資料的には断片的である。対岸の鳥川や碓氷川右岸では、山名柳沢遺跡、大平台遺跡など早期から晩期に亘る住居跡や遺物が散見される。弥生時代では、高崎城V・VI遺跡(3)、同VII遺跡(5)、竜見町遺跡(7)、高崎競馬場遺跡(14)、高関東沖・村前遺跡(8)、高関村前遺跡(10・11)、高関堰村遺跡(9)、城南小学校校庭遺跡(23)、対岸の碓氷川右岸の少林山台遺跡などが知られる。学史的に著名な竜見町遺跡や高崎競馬場遺跡のほか、遺構としては環濠集落、方形周溝墓などが検出されているが、後期以降の遺跡の分布は、井野川流域の沖積地に移動するようである。古墳時代では、上佐野船橋I・II・III遺跡(44~46)や船橋遺跡(43)、下佐野I・II遺跡(39・40)、倉賀野万福寺I・II遺跡(32・33)などの前期から後期の集落跡・墓域が鳥川左岸に展開される。その他、高崎城III・IV遺跡(2)、同V・VI遺跡(3)、高関東沖・村前遺跡(8)、高関村前遺跡(10・11)、上中居辻薬師II遺跡(13)、双葉町I遺跡(18)、新後関寺廻遺跡(22)、対岸では鶴辺遺跡(56)などの、主として中期から後期にかけての集落跡がある。古墳としては、著名な浅間山古墳(38)、大鶴巻古墳(36)、小鶴巻古墳(37)をはじめ越後塚古墳(15)の前方後円墳、対岸では三島塚古墳(51)、稲荷山古墳などの古墳が知られている。また、大鶴巻古墳(36)の北東部には切石積石室をもつ終末期古墳として著名な安楽寺古墳がある。この期の生産跡としては東町III遺跡の水田跡がある。奈良・平安時代では、高崎城III・IV遺跡(3)、同V・VI遺跡(4)、同VII遺跡(6)、新後関寺廻遺跡(51)、対岸の寺尾中台遺跡(60)などの集落跡があげられる。いわゆる「B下水田」跡は現・高崎市街地を中心に単発的ながらかなりの遺跡数が発見されており、集落と生産跡との関連など、その歴史像が次第に解明されつつある。

IV 基本層序



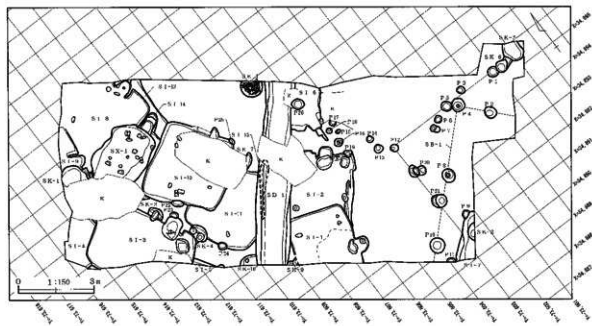
第2図 基本層序模式図 (1:20)

調査区南西壁面の9号土坑近辺の層序を模式図として示した。表土は整地面。I層は、As-A・Bの混入する黒褐色土(10YR 2/3 黒褐)。粘性弱く、しまりがある。II層はAs-Bの混入する黒褐色土(10YR 2/2 黒褐)で、I層より暗色。II'層は漸移層的な土層で、As-BとAs-Cが混入する。III層はAs-C混入の黒褐色土(10YR 2/3 黒褐)で、ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。粘性・しまりがあり、遺物包含層となっている。IV層はローム漸移層(10YR 3/4 暗褐色)、V層はローム層である。

V 検出された遺構と遺物

狭い調査区ではあるが、遺構としては竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡1棟、土坑9基、井戸1基、ピット22本、溝1条、性格不明遺構1基を検出した。住居跡は7世紀後半から10世紀にかけてのものであり、中世以降と思われる溝と土坑2基以外の遺構も、おおむね住居跡と同じ年代幅の中に位置づけられるようである。

遺物は、包含層も含め土師器坏と甕が圧倒的に多い。須恵器は、器種は揃うが、坏以外では個体資料はほとんどなく、破片数も少ない。年代的には8世紀代が中心である。



第3図 遺跡全体図

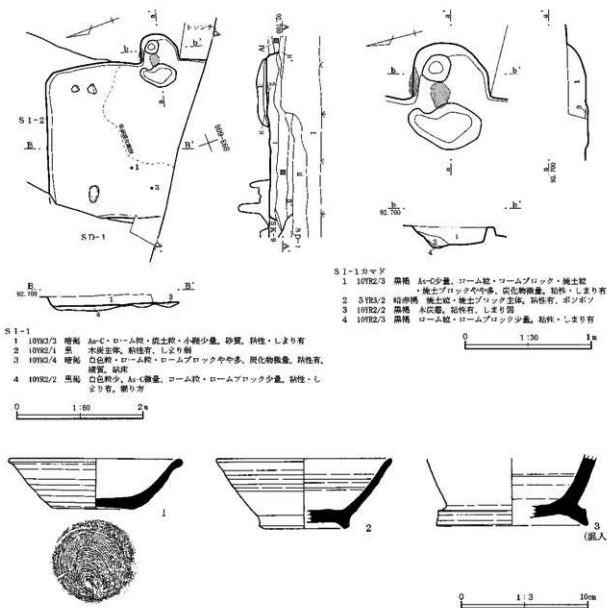
1 竪穴住居跡

1号住居跡 (第4図、第3表、PL.2・5)

位置 調査区中央南西際。 **遺存・重複** 南西部は調査区外。北東部は2号住居跡と重複。北西部は1号溝に切られる。 **形状・規模** 東電の方形プラン。東西2.45m、南北は現存値2.55m、壁高15cm。 **床面** 電前面から住居跡中央部に硬化面。 **施設** 電は、東壁を幅0.61m、奥行き0.44m、深さ約15cm掘り込んで造られる。火床部は皿状の掘り込み。北壁と火床部東側に赤化部分。遺物は破片3点のみ。 **出土遺物** 第4図1は略完形。3cは7c代と思われ、混入であろう。その他総破片数112点。 **備考** 9c後半～10cと思われる。

2号住居跡 (第5図、第3表、PL.2・5)

位置 調査区中央。 **遺存・重複** 1号住居跡の床下に検出。北西部は1号溝に切られる。 **形状・規模** 北東電の方形。南西壁と東コーナーに張り出し状の掘り込みがあるが、住居跡に伴うものか不明。南北3.4m、東西の現存値2.58m、壁高23cm。 **床面** とくに硬化面なし。 **施設** 電は北東壁を幅0.56m、奥行き約0.25m、深さ20cmに掘り込んで造られる。火床部は浅い掘り込みであるが、掘り方は深く、焼土ブロック・木炭混入土が充填されており、火床面の作り替えが行

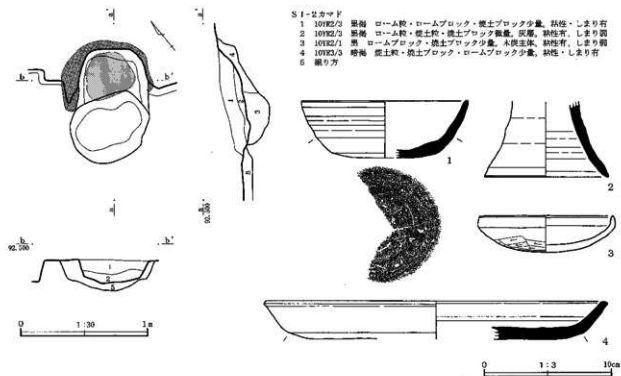
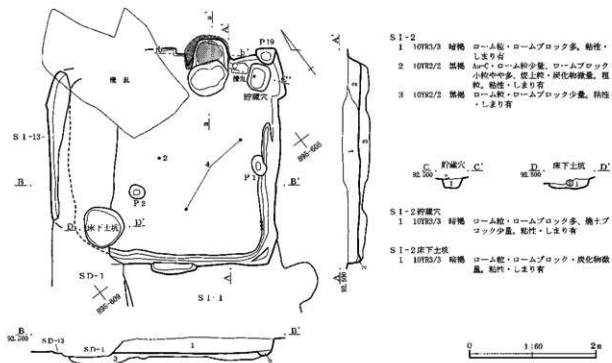


第4図 1号住居跡、出土遺物

われている。左袖部には暗褐色粘質土が用いられる。貯蔵穴 上径0.41m×0.33m、底径0.32×0.21m、深さ15cmの規模で、上面より土師器坏・壘片出土。ビット P₁は17.4cm、P₂は40.2cmの深さ。周溝 部分的で全周しない。深さは5cm前後。床下土坑 西コーナー下に検出された。上径0.65×0.63m、深さ9cmの略円形の掘り込みで、1号溝に一部切られる。出土遺物 総破片数310点。個体資料は第5図の4点。土師器坏・壘片が大半である。その他、こも石3点、軽石1点。備考 7c末～8c初頭と思われる。

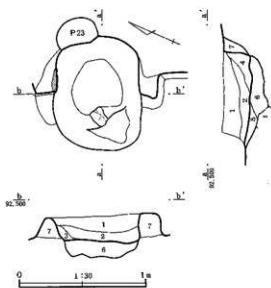
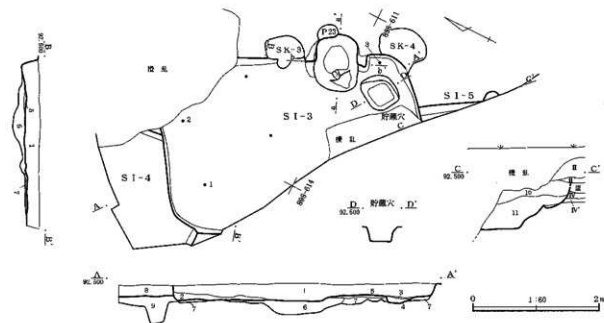
3号住居跡 (第6図、第3表、PL2・5)

位置 調査区西側。遺存・重複 南西部は調査区外。北西側に4号住居跡、南東側に5号住居跡が重複する。掘乱坑2カ所。形状・規模 北東竈の、北西-南東を長軸とする長方形。北西-南東長4.03m、北東-南西長2.80m、壁高約30cm。床面 よくしまるが、とくに硬質面はない。施設 竈は、北東壁を幅0.66m、奥行き0.46m、深さ約20cmに掘り込む。袖部は造り出

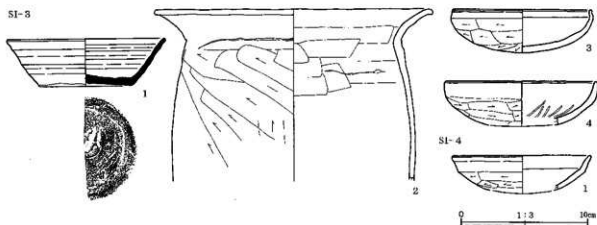


第5図 2号住居跡、出土遺物

しのように、左袖部にもその痕跡がある。火床部は煙道と直結している。遺物はない。貯蔵穴は、上径 $0.56 \times 0.49\text{m}$ 、底径 0.32m 、深さ 23cm の方形。土師器片7点出土。出土遺物 固体資料は第6図1のみ。総破片数442点。土師器環・甕片が約8割を占める。その他、こも石1点。備考 8c前半と思われる。



- SI-3
- 1 10YR2/2 黒褐 As C・ローム粒・ロームブロック少量、焼土粒・炭化物微量。粘性・しまり有
 - 2 10YR2/2 黒褐 As-C少量、ローム粒・ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物微量。粘性・しまり有
 - 3 10YR2/1 赤 水戻主体、焼土粒・焼土ブロック少量。粘性有、しまり弱
 - 4 10YR2/3 暗褐 ローム粒・焼土粒少量、炭化物微量。粘性・しまり有
 - 5 10YR2/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックやや多、細灰、粘性有、硬質
 - 6 10YR2/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックやや多、焼土粒・焼土ブロック微量。粘性・しまり有
 - 7 10YR2/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックやや多。粘性・しまり有
- SI-4
- 8 10YR2/3 暗褐 ローム粒・ロームブロックやや多、As-C少量、炭化物微量。粘性・しまり有
 - 9 10YR2/3 暗褐 細り方、ローム粒・ロームブロック多。粘性・しまり有
- SI-5
- 10 10YR2/3 黒褐 As-C、白色粒少量、焼土粒・炭化物微量
 - 11 10YR2/3 黒褐 白色粒・ローム粒少量。粘性・しまり有
- SI-3カマド
- 1 10YR2/3 暗褐 As-C・ローム粒・ロームブロック・焼土ブロック少量、粘性・しまり有
 - 2 10YR2/3 暗褐 As-C少量、ローム粒・ロームブロック少量、焼土粒・焼土ブロックやや多、粘性・しまり有
 - 3 10YR2/2 暗褐 木炭・灰少量、焼土粒・焼土ブロックやや多。粘性・しまり有
 - 4 10YR3/1 暗褐 灰主体、焼土粒・ロームブロック少量。粘性有、しまり弱
 - 5 10YR2/2 暗褐 瓦葺状の木炭・灰層、焼土粒・ロームブロック少量。粘性有、しまり弱
 - 6 10YR3/2 暗褐 ローム粒・ロームブロック少量、焼土粒・焼土ブロックやや多。粘性・しまり有
 - 7 10YR3/3 暗褐 ローム粒・ロームブロック・焼土粒少量。粘性・しまり有



第6図 3・4・5号住居跡、出土遺物

4号住居跡 (第6図、第3表)

位置 調査区西端部。 **遺存・重複** 北側と西側は調査区外。東は3号住居跡に、北東部は攪乱坑に断ち切られ、ごく一部の遺存。 **形状・規模** 現存値は、東西1.85m、南北約2m、壁高18cm。 **床面** 硬質面なし。 **施設** 不明。 **出土遺物** 総破片数58点。 **備考** 7c後半か。

5号住居跡 (第6図)

位置 調査区西側。 **遺存・重複** 大半が調査区外。北西部は3号住居跡に切られる。 **形状・規模** 壁高は基本層序Ⅲ層から計測して約60cm。半円形の張り出しはピットか。 **出土遺物** なし。

6号住居跡 (第7図、第3表、PL.2)

位置 調査区中央北側。 **遺存・重複** 北東部は調査区外。北西部は1号溝に切られ、南西壁も攪乱坑に断ち切られるが、一部遺存する。 **形状・規模** 南コーナー電の方形。かろうじて確認できる床面範囲から、北西-南東の復元長約2m、南西-北東長は現存で1.88m、壁高は約22cm。 **床面** とくに硬質面はない。 **施設** 電は、南コーナーを幅0.48m、奥行き0.33m、深さ12cmの平面台形状に掘り込む。一段高く長0.6mの煙道が付設される。袖部は造り出しと思われ、左袖部に方柱状の安山岩を立てて焚口としている。火床部はとくに掘り込みはなく、灰層が認められる。遺物はない。ピット(P-26)は床下検出であるが、出土遺物(第17図)からみて当住居跡を掘り込んでいる可能性が高い。 **出土遺物** 個体資料はなく、総破片数100点。土師器環・甕片が約9割を占める。 **備考** 奈良~平安前半か。

7号住居跡 (第8図)

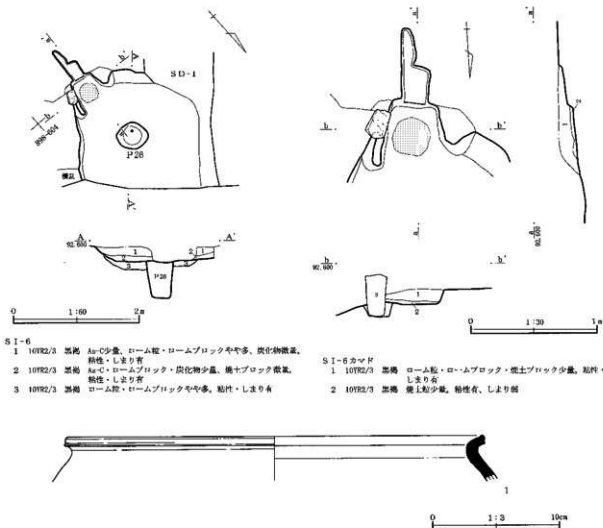
位置 調査区南東隅。 **遺存・重複** 大半が調査区外。2号土坑に切られる。 **形状・規模** 現存値で、北西-南東長0.75m、北東-南西長1.87m、壁高約20cm。 **出土遺物** 土師器坏片1点。

8号住居跡 (第9・10図、第3表、PL.3・5)

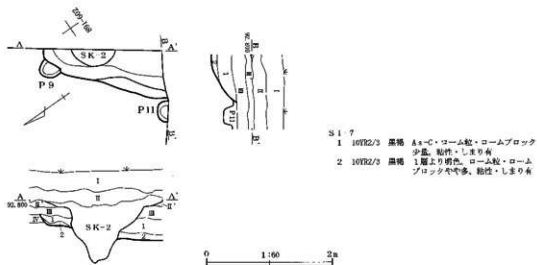
位置 調査区北西端。 **遺存・重複** 北側は調査区外。南側はSX-1、南側は9号住居跡が重複する。 **形状・規模** 東電の方形プラン。南北は現存値で3.3m、東西は復元値で約3.76m、壁高10cm。 **床面** とくに硬質面なし。 **施設** 電は、東壁を幅0.55m、奥行き0.5mの平面半円形状に、深さ25cmで掘り込む。一段高く煙道が付設される。袖部は造り出しであるが、右袖部の一部にロームと暗褐色粘質土との混合土が使われている。焚口には河原石を据えており、天井部にも一部河原石が残る。支脚は円柱状の雲母片岩で、火床部に8cmほど埋め込み、粘質土で根固めしている。支脚周辺は硬化した焼土が盛り上がり、灰層も良好に遺存しており、一部電前面に流出している。遺物はクロコ使用の甕(土釜)(第10図2)の破片群。 **出土遺物** 第10図1は混入遺物と思われる。掲載遺物以外の破片数146点で、土師器環・甕が9割弱を占める。その他、台石(あるいは磨石)1点。 **備考** 11c以降と思われる。

9号住居跡 (第9図、PL.3)

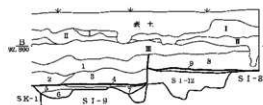
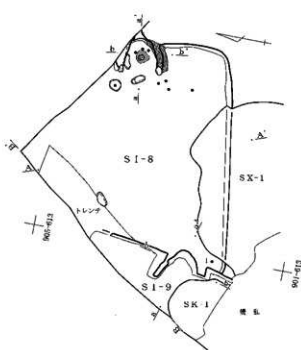
位置 調査区北西隅。 **遺存・重複** 東側は8号住居跡を切り、南側は攪乱坑と1号土坑に切られる。 **形状・規模** 東電の方形プラン。現存値で、南北長2.3m、東西長1.1m。壁高は、基本層序Ⅲ層下位面からの計測で約58cm。 **床面** とくに硬質面はない。 **施設** 電は、東壁を幅1.2m、奥行き0.6mの平面半円形に、深さ50cmで掘り込む。袖部は造り出して、右袖部は1号土坑に断ち切られている。火床部の掘り込みはなく、焼土・灰の分布はわずかである。遺物は土師器甕片7点。 **出土遺物** 個体資料はない。総破片数32点で、土師器環・甕片29点。 **備考** 平安後期か。



第7図 6号住居跡、出土遺物



第8図 7号住居跡



S I-8

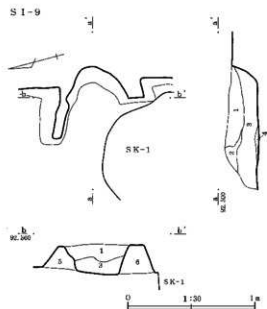
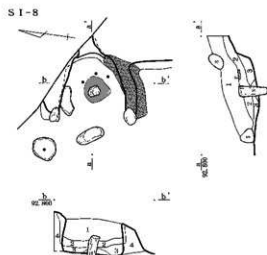
- 1 10YR2/3 黒褐色 Aa-C微量、ローム粒・炭土粒少量、粘性・しまり有
- 2 10YR2/2 黒褐色 Aa-C微量、白色粒・ローム粒やや多、粘土、粘性有、硬質
- 3 10YR2/3 黒褐色 Aa-C、ローム粒・ロームブロック少量、掘り方、粘性・しまり有

S I-9

- 1 10YR2/3 黒褐色 Aa-Cやや多、ローム粒少量、粘土粒・炭化物微量、粘性・しまり有
- 2 1層に白色粒多
- 3 10YR2/1 黒褐色 Aa-C、ローム粒・ロームブロックやや多、炭化物微量、粘性・しまり有
- 4 10YR2/1 黒褐色 凝状にロームブロック、炭状、粘性・しまり有
- 5 10YR2/1 黒褐色 Aa-C少量、ローム粒・ロームブロックやや多、掘り方、粘性・しまり有
- 6 10YR2/3 黒褐色 ローム粒少量、ブームブロック多量、掘り方、粘性・しまり有
- 7 10YR2/2 黒褐色 白色粒少量、ローム粒微量、粘性・しまり有

S I-8

- 8 10YR2/3 黒褐色 Aa-C、ローム粒・ロームブロック・炭土粒少量、炭化物微量、粘性・しまり有
- 9 10YR2/3 黒褐色 白色粒少量、ローム粒微量、炭状、粘性・しまり有



S I-8カマド

- 1 10YR2/3 黒褐色 ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭七ブロック少量、粘性・しまり有
- 2 10YR2/2 黒褐色 炭土粒少量、炭塊、粘性有、しまりやや弱
- 3 10YR1.7/1 黒褐色 木炭・灰土塊、粘性有、しまり弱
- 4 10YR4/4 暗褐色 ロームブロック・埋め残りの粘土、粘性・しまり有

S I-9カマド

- 1 10YR3/3 暗褐色 Aa-C微量、ローム粒・ロームブロックやや多、炭化物少量、粘性・しまり有
- 2 10YR2/2 黒褐色 Aa-C、ローム粒少量、粘性・しまり有
- 3 10YR2/2 黒褐色 Aa-C、ロームブロック・焼土粒少量、ローム粒やや多、粘性・しまり有
- 4 10YR3/2 暗褐色 焼土ブロック主体、粘性有、しまりやや弱
- 5 10YR4/3 暗褐色 焼土ロームの形質主体、左地、粘性・しまり有
- 6 10YR2/3 暗褐色 Aa-C、ロームブロック少量、焼土ブロック微量、右地、粘性・しまり有

第9図 8・9号住居跡



第10図 8号住居跡

10号住居跡 (第11図、第3表、PL.3・5)

位置 調査区中央北西寄り。 **遺存・重複** 北側では12・14号住居跡、南側では11号住居跡と重複。東側は攪乱坑に断ち切られる。 **形状・規模** 北東竈の方形プラン。北東—南西長3.5m、北西—南東長3.18m、壁高約24cm。 **床面** とくに硬質面なし。 **施設** 竈は、北東壁を幅0.37m、奥行き0.28mの半楕円形状に、深さ約20cmにほり込む。煙道側は一段高いが、スロープ状で、この部分が赤化している。前面は攪乱坑で断ち切られている。 **出土遺物** 個体資料は第11図1のみ。総破片数147点。土師器環・甕片が9割を占める。土師器環では、8c代のものが大半であるが、床直出土は少ない。その他、こも石3点。 **備考** 7c末～8cか。

11号住居跡 (第11図、第3表、PL.3・5)

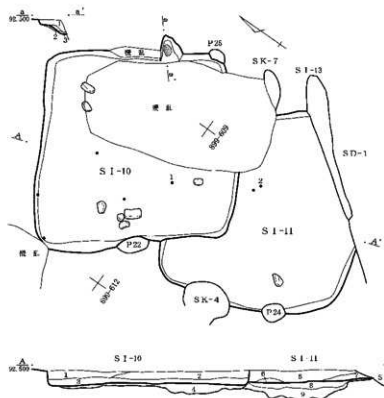
位置 調査区中央西寄り。 **遺存・重複** 北側は攪乱坑と10号住居跡に、南東側は1号溝に切られる。竈は1号溝に切られており、その部分の溝覆土中に焼土・灰の分布が認められた。 **形状・規模** 方形プラン。北西—南東長3m、北東—南西長3.2m、壁高約18cm。 **床面** 硬質面なし。 **出土遺物** 個体資料は第11図2。総破片数204点。土師器環・甕片が9割以上を占める。坏片は8c代が主体。その他、こも1点、台石(あるいは磨石)1点。 **備考** 7c末～8cか。

12号住居跡 (第12・13図、第3表、PL.3)

位置 調査区北西端。 **遺存・重複** 8号住居跡床下に検出。14号住居跡に切られる。 **形状・規模** 不明。 **床面** 硬質面なし。 **施設** 柱穴が4本。P₁は深さ56.2cmでしっかりした掘り込み、他の柱穴もほぼ同じ深さである。壁溝は北側に2条検出された。深さ約5cm。拡張か。 **出土遺物** 個体資料はない。総破片数23点。須恵器盤(第13図1)の他、カキ目の甕片、土師器環など。須恵器盤はSX-1と接合関係にある。 **備考** 7c後半か。

13号住居跡 (第5図)

位置 調査区中央。 **遺存・重複** 1号溝の北西壁面にわずかに検出された住居跡。他の住居跡との切り合い不明。 **出土遺物** なし。



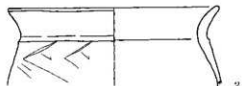
- S1-10
- 1 10YR2/3 黒褐色、ローム粒・ロームブロック・焼土粒少量、粘性・しまり有
 - 2 10YR2/3 黒褐色、焼土粒少量、ローム粒・ロームブロックやや多、粘性・しまり有
 - 3 10YR2/3 黒褐色、腐化物少量、ローム粒・焼土粒少量、粘性・しまり有
 - 4 10YR2/3 黒褐色、ローム粒少量、ロームブロック多、黏り方、粘性・しまり有
- S1-11
- 5 10YR2/3 黒褐色、褐色シルト塊少量、ローム粒・焼土粒少量、粘性・しまり有
 - 6 10YR2/3 黒褐色、ローム粒・ロームブロック・焼土粒、褐色シルト塊少量、粘性・しまり有
 - 7 10YR2/2 黒褐色、ローム粒・灰微塵、粘性有、しまり有
 - 8 10YR2/3 黒褐色、ロームブロック多、黏性、粘性・しまり有
 - 9 10YR2/3 黒褐色、ローム粒・ロームブロックやや多、焼土ブロック・灰少量、黏り方、粘性・しまり有
- S1 10サマド
- 1 10YR2/3 黒褐色、ロームブロック・焼土ブロックやや多、粘性・しまり有
 - 2 10YR2/3 黒褐色、ローム粒・焼土ブロック少量、粘性・しまり有
 - 3 10YR2/2 黒褐色、焼土ブロック少量、粘性有、しまり有

S1-10



0 1:3 10cm

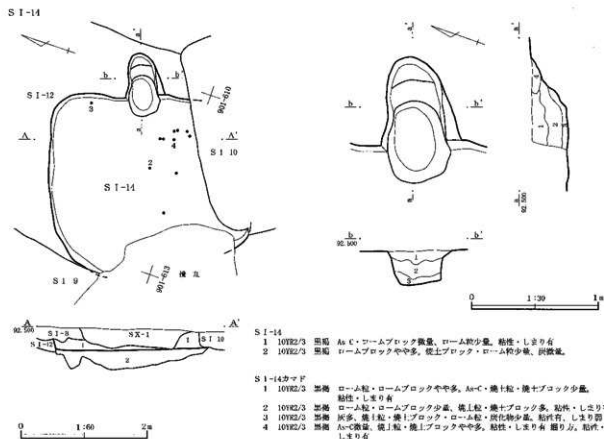
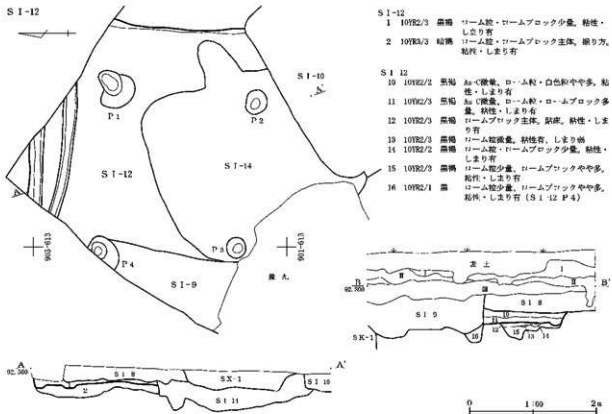
S1-11



第11図 10・11号住居跡、出土遺物

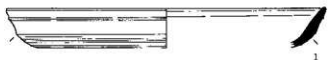
14号住居跡 (第12・13図、第3表、PL.3・5)

位置 調査区北西部。 **遺存・重複** 上面にSX-1が構築されている。北側では8号住居跡に切れ、12号住居跡を切る。南東部は10号住居跡に、南西部は攪乱坑に切られる。 **形状・規模** 東電の方形プラン。復元値では、南北長約3.2m、東西長約2.9m、壁高は土層A-A'南側でみると約25cmを測る。 **床面** とくに硬質面はない。 **施設** 電は、東壁を幅0.6m、奥行き0.73mの平面半楕円形状に、深さ28cm掘り込まれる。煙道部はスロープ状に一段高い。火床部は皿状の掘り込みで、とくに赤化面や顕著な灰の分布は認められない。 **遺物** は土師器環・甕細片のみ。 **出土遺物** 個体資料は第13図1～4で、完形品はない。この4個体を除いた破片数306点。土師器環・甕片で9割を占める。その他、こも石6点。 **備考** 7c後半



第12図 12・14号住居跡

SI-12



1

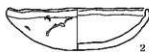


3

SI-14



1



2



4

0 1:3 10cm

第13図 12・14号住居跡出土遺物

2 掘立柱建物跡 (第14図、PL.4)

1号掘立柱建物跡 調査区南東部に一部検出。P 2・4・8・10の4本で、主軸はN-46°-E。柱穴間は心寸距離でP 4-P 8間2.75m、P 8-P 10間2.85m、P 2-P 4間1.30m。P 4・8には柱据え置き痕と思われる径10~15cmの凹部がみられる。遺物はなく、時期は判然としないが、住居跡群との重複がないこと、埋土の状況、10・11号住居跡と主軸を同じくするなど、西側住居跡群との関連が窺われる。

3 土坑 (第15図、第1表、PL.4)

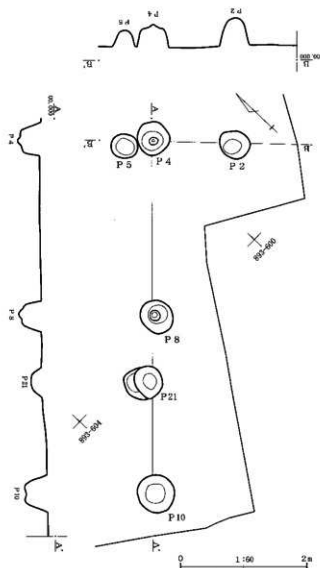
9基検出。覆土から1・2号は中世以降、3~7・9・10号は古代の土坑と思われる。4・9号ではピット状の掘り込みが付設されている。遺物は、3・4・9号で須恵器壺片、土師器杯・壺片が採取されるが、時期の決め手にはなりにくい。

4 井戸 (第16図、PL.4)

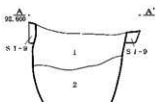
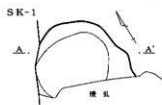
1号井戸 調査区北壁際にあり、過半は調査区外。上径0.85m、底径0.2m、深さ1.15m。顕著な湧水はない。廃絶後に多量の河原石を投棄している。遺物は土師器杯・壺片7点。埋土にAs-Bの混入がなく、古代の井戸であろう。

5 溝 (第16図、第3表、PL.3・6)

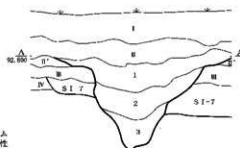
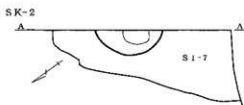
1号溝 調査区中央をN-40°-Eで走向する、幅約1.35m、深さ約60cmの溝である。現存長7.23mで、溝底標高は南西端で92.157m、北東端で92.16mとほぼ水平に掘削されている。遺物は古代の土



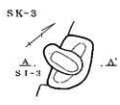
第14図 1号掘立柱建物跡



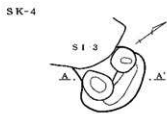
- SK-1
1 10YR2/2 黒褐色 Au-B層上、ローム粒・ロームブロック・炭化物散在。粘性・しまり有
2 10YR2/2 黒褐色 Au-B層上、ローム粒・ロームブロック少量



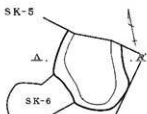
- SK-2
1 10YR2/1 黒 Au-B層上。粘性・しまり弱
2 Ab-C硬土。1層より明色
3 10YR1.7/1 黒 Au-B層上。粘性有。しまり弱



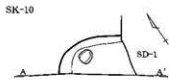
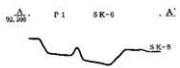
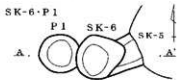
- SK-3
1 10YR2/3 黒褐色 Au-C少量。ローム粒・ロームブロックやや多。焼土粒・炭化物散在。粘性・しまり有



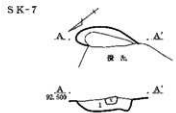
- SK-4
1 10YR2/3 黒褐色 Au-C少量。ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物散在。粘性・しまり有
2 10YR2/3 黒褐色 ローム粒・ロームブロック少量。粘性・しまり有
3 10YR2/3 黒褐色 ローム粒・ロームブロック少量。粘性・しまり有



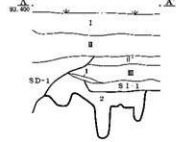
- SK-5
1 10YR2/2 黒褐色 Au-C・焼土粒少量。ロームブロック少量。粘性・しまり有



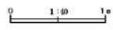
- SK-10
1 10YR2/3 男用 白色粒・ローム粒少量。粘性・しまり有



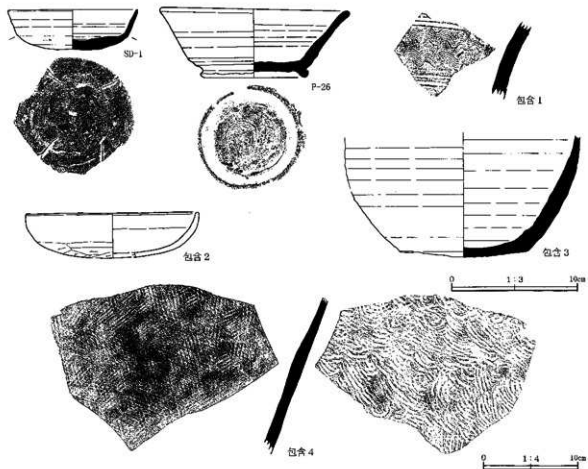
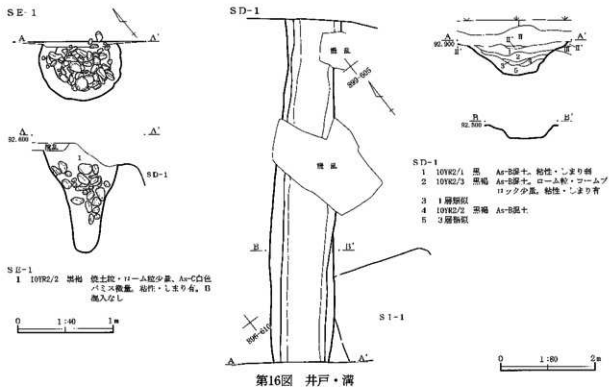
- SK-7
1 10YR2/3 黒褐色 Au-C・ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭土ブロック少量。粘性・しまり有



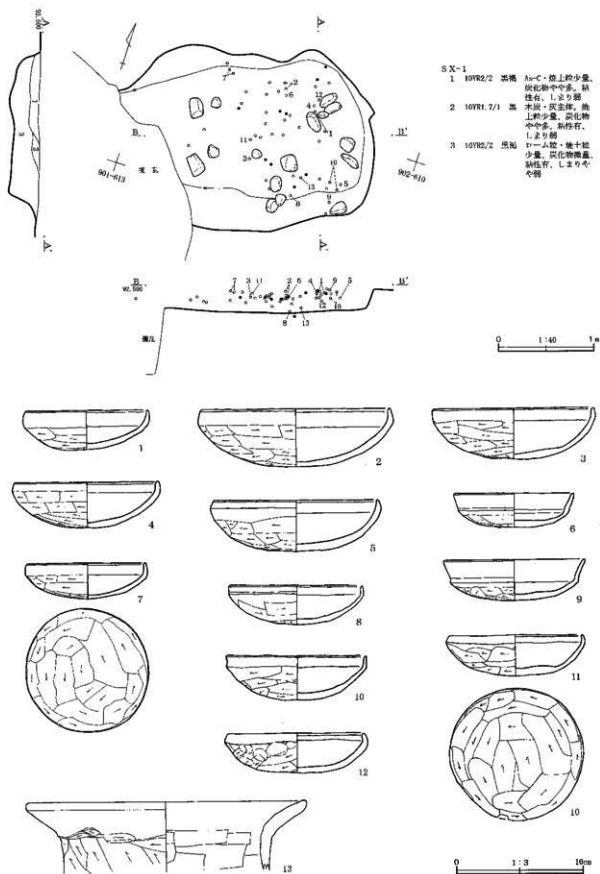
- SK-9
1 10YR2/3 黒褐色 Au-C少量。ローム粒やや多。粘性・しまり有
2 10YR2/2 黒 白色粒・ローム粒少量。粘性・しまり有



第15図 土坑



第17図 溝・ピット・包含層出土遺物



第18図 性格不明遺構 (SX-1)、出土遺物

器片117点の他、舶載青磁片（同安窯系か）が1点出土している。覆土にAs-Bを含み、時期的には中世以降であろう。

6 ピット（第3図、第2・3表、PL.4・6）

22本検出。調査区南東部に18本がまとまって検出されている。覆土の状況からみて大半が古代のピットと思われる。P1・5・12・21は心距離が2.7~2.8mと1号掘立柱建物跡と類似した数値を示すので、建物跡の可能性はあるが、いずれにしる小屋掛程度の簡便な建物であろう。P26は6号住居跡の床下から検出されたピットで、略完存の高台付坏（第17図）が出土している。

7 性格不明遺構（第18図、第3表、PL.4・5・6）

SX-1 調査区北西部、14号住居跡の上に構築された竪穴状の遺構である。南西部は攪乱坑に断ち切られている。北東-南西長は現存値2.65m、北西-南東長1.86m、壁高は約23cmの長方形を呈する。覆土中より16点の河原石に混じってかなりの量の土師器坏片が出土している。総破片数631点のうち、土師器坏片363点、土師器甕片231点で、この2器種で9.4割を占める。土師器坏では有稜の坏は2割弱で、他は内傾する短口縁の坏で、口径10cm前後の小型品、12~13cmの中型品、15cm前後の大型品がある。土師器甕では図示できる程に復元できた資料は1点のみである。

8 包含層出土遺物（第17図、第3表、PL.6）

総破片数1,448点。うち土師器坏671点、土師器甕620点で、この2器種で9割弱を占める。土師器坏類では、箱形の暗文坏片が3点ある。須恵器坏では、平底14点のうちケズリが6点あるが、丸底風の坏片はない。蓋ではかえしのある破片が5点あるが、蓋端部片はこの破片のみである。この他、縄文土器片1点(中期後半か)、波状文をもつ弥生後期片1点、ミガキ調整やハケ目、内面赤彩など古墳時代前期と思われる破片が4点ある。これらの時期の土器片は、6号住居跡で3点(古墳前期)、8号住居跡で2点(古墳前期)、10号住居跡で2点(弥生後期、古墳前期)採取している。

第1表 土坑一覧表

()内数値は現存値

No.	平面形	重 複	上径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	覆 土	備 考
1	円形	SI-9, 攪乱	(100) × (68)	80 × (60)	80.0	As-B區土。ローム粒・同ブロック	
2	円形	SI-7を切る	71 × (27)	28 × (15)	86.5	As-B區土	
3	楕円形	SI-3を切る	59 × 50	48 × 15	25.0	As-C, 焼土粒、炭化物	土師器坏・甕小皿片
4	楕円形	SI-3・11	75 × 57	50 × 12	18.0	As-C, 焼土粒、炭化物	土師器坏・甕小皿片
5	楕円形	SK-6	(85) × 73	(73) × 50	8.0	As-C, 焼土粒	
6	楕円形	SK-5	(67) × 46	(60) × 32	15.0	As-C, 焼土粒	
7	楕円形	攪乱	(64) × (21)	(51) × (14)	13.0	As-C, 焼+ブロック	カマドの可能性あり
9	楕円形	SI-1, SD-1	106 × (30)		15.0	As-C, ローム粒少量	土師器坏片
10	楕円形	SD 1	(80) × (40)	(57) × (35)	45.0	白色粒、ローム粒少量	

第2表 ピット一覧表(1)

()内数値は現存値(1)

No.	平面形	重 複	上径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	真部高	覆 土	備 考
1	円	SK-6	40	29	6.5	92.08	10YR7/2黒褐 ローム粒・同ブロック含む	
2	円		48	30	40.0	91.97	10YR7/2黒褐 ローム粒、炭化物少量	SB-1の柱穴
3	円		32	19	45.3	91.91	(P-2に同じ)	
4	円		52	34	28.0	92.12	10YR7/2黒褐 ローム粒、炭化物、焼土粒少量	SB-1の柱穴
5	円		43	29	23.2	92.24	(P-2に同じ)	
6	円		27	19	15.0	92.23	(P-2に同じ)	
7	円		26	13	28.0	92.18	(P-4に同じ)	
8	円		55	30	31.2	92.11	(P-4に同じ)	SB 1の柱穴
9	楕円?	SI-7	(28)	(22)	9.7	92.32	10YR7/2黒褐 ローム粒少量	
10	円		60	30	34.7	92.13	(P-4に同じ)	
11	円?	SI 7	34	20	16.0	92.35	10YR7/2黒褐 ローム粒少量	SB-1の柱穴
12	円		32	12	31.5	92.12	(P-1に同じ)	

第3表 ビット一覧表(2)

()内数値は現存値(2)

No.	平面形	重	縦	上径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	底面高	覆	土	備	考
13	円			37	20	31.5	92.11	(P-11に同じ)			
14	円			27	16	4.1	92.39	10YR7.5/黒褐	ローム粒、粘土粒少量		
15	小円			20	6	7.1	92.36	10YR7.5/黒褐	ローム粒・同ブロック小量		
16	円			34	10	35.5	92.04	10YR7.5/黒褐	ローム粒・同ブロックやや多い		
17	円?	粗粒		25	18	10.0	92.32	(P-14に同じ)			
18	円			22	10	13.4	92.28	(P 2に同じ)			
19	方?	SI-2		32	15	31.0	92.69	10YR7.5/黒	ローム粒・同ブロック少量		
20	円	3本の重板		66	20	45.3	91.95	(P 11に同じ)			
21	円	2本の重板		60	25	14.3	92.34	(P-11に同じ)			
22	円?	SI-19に切られる		(50)	(30)	20.0	92.20	(P 15に同じ)			
23	円	SI 3瓶を切る		65	42	17.5	92.27	10YR7.5/黒褐	ローム粒、焼土粒、灰少量		
24	円	SI-11を切る		37	25	19.8	92.20	(P 4に同じ)			SI-12の柱穴か
25	円?	SI-10		(30)	(13)	19.5	92.23				
26	円	SI-6床下		51	30	56.0	91.75	10YR7.5/黒	白色粒、ローム粒少量		須惠高台坪

第4表 出土土器観察表(1)

() : 現存値 [] : 復元値

遺構名	番号	種別・器類	遺存	法量(cm)	彫形・技法の特徴	胎台	焼成	色調	備	考	
SI-1	1	須惠窯 環	口縁 一部欠損	13.8	底部よりやや内傾気味に立ち上がり、口縁部 外反し、口唇部直線、口口ロ成り。口口目は 強い。底面回転ネジナデ。	精選。白 色粒、小 レキ少量	堅	緑	暗緑灰色		
				3.9							
	2	須惠窯 高台付 環	1/2	13.85	高台断面台形。体部～口縁はほぼ直線的に 立ち上がる。口口ロ成り。貼り付け高台。口口 ロ目は強い。底面回転ネジナデ後高台貼付	やや粗い、 白・黒色 粒少量	堅	緑	暗灰色		
				5.5 7.2							
SI-2	1	須惠窯 環	口縁 一部欠損	13.2	やや丸底状の底面。体部～口縁は内傾気味に 立ち上がる。口口ロ成り。口口目は強い。 体部下～底面に肉つて左方向の回転ネジナ デ。底面は台部貼り付け後回転ナデ	精選。白 色粒、小 レキ少量	堅	緑	灰色		
				4.5 8.2							
	2	須惠窯 高台付 土師窯	脚片	(5.9)	口口ロ成り。口口目は強い。脚中位はや しぼり込むように水引きしている	精選。白 色粒、小 レキ少量	堅	緑	暗灰色		
				9.7							
SI-3	1	須惠窯 環	1/2	10.6	丸底。ゆるい腰をもち、口縁はわずかに内傾 して立ち上がる。	精選。向 明石少量	硬	質	茶褐色		
				2.9							
	2	土師窯 環	上半片	(27.1)	平底。口縁は直線的に外反し、口縁部は外につ まみ出る。口口ロ成り。口口目は強い。底 面は肉つて左方向の回転ネジナデ	精選。			暗灰色		
				(2.9)							
SI-3	1	須惠窯 環	1/2	12.55	やや内傾。薄手のつくりで、体部～口縁は直 線的に外反し。口口ロ成り。口口目はやや強 い。底面ヘラ切りか。	精選。非 常に密な 胎土	堅	質	内外暗青 灰色。新 面茶褐色		
				3.7 7.4							
	2	土師窯 環	上半片	(22.0)	長胴型。薄手のつくりで、口縁は大きく外 反し、口唇部は外側につまみ出される。口口 コナデ、外面ナメケズリ、内面ヨコヘラナ デ	精選。内 面石少量	硬	質	茶褐色		外面～口縁部内 面被熱痕
				(13.5)							
3	土師窯 環	1/2	11.0	小皿。丸底。ゆるい腰をもつ。口縁は短かく やや内傾気味に立ち上がり、口唇部はわずか に内傾。外面ケズリ、内面ナデ	精選。角 四石、小 レキ少量	硬	質	茶褐色			
			3.4								
4	土師窯 環	1/2	12.0	丸底。底部より強直して口縁。口縁はほぼ直 線的に立ち上がる。口口ロコナデ。底面内 面ケズリ、内面ナデ後放射ミダギ	精選。角 四石少量	硬	質	暗茶褐色			
			3.6								
SI-4	1	土師窯 環	1/2	(11.0)	丸底。底面と口縁の境に腰をもつ。口縁は外 に外反し、口唇部は外につまみ出る。底面 外面ケズリ、内面ナデ	精選。角 四石少量	軟	質	暗褐色		器面磨滅
SI-6	1	須惠窯 環	破片	(32.6)	大口の壺か。口唇部はつまみ上がる。口口 ロ成り。	精選。白 ・黒色 粒少量	堅	質	暗灰色		
SI-8	1	須惠窯 環	口縁 一部欠損	10.2	やや丸底状。底面中心部は平坦。体部～口縁 は直線的に外反。口口ロ成り。口口目は弱 色調内面で強め。底面は手持ちケズリ	精選。白 色粒、小 レキ多	堅	質	暗緑灰色		器入遺物
				3.7							
SI-10	1	土師窯 環	1/2	(24.3)	胴部は内傾気味に立ち上がり、頸部のくびれ は弱い、口縁はほぼ直線的に立ち上がる。 外面は工具を使用し、タテの船橋なエビナ デ	やや粗い 小レキ多 赤色粒少	硬	質	茶褐色		破片は多いが接 合しない
				(23.1)							
SI-11	1	土師窯 環	1/2	10.6	丸底。底面と口縁の境にゆるい腰をもつ。口 縁は短かく内傾する。口口ロコナデ。底面 外面ケズリ、内面ナデ	精選。向 明石少量	硬	質	茶褐色		器面やや磨滅
				3.3							
SI-11	2	土師窯 環	上半片	(22.0)	大皿。鉢形に近い。丸底。底面から屈曲して 口縁。口縁は短かく内傾気味。口口ロコナデ。 底面外面ケズリ、内面ヘラナデ	精選。角 四石少量	硬	質	茶褐色		
				(5.6)							
SI-11	2	土師窯 環	上半片	16.7	肩帯のみ、肩のあまりない部分とやや張る 部分がある。口縁はゆるやかに外反し、口口 コナデ。胴部外面ナメケズリ、内面ナデ	精選。角 四石少量	硬	質	茶褐色		
				(6.1)							

第5表 出土土器観察表(2)

(): 現存値 (): 復元値

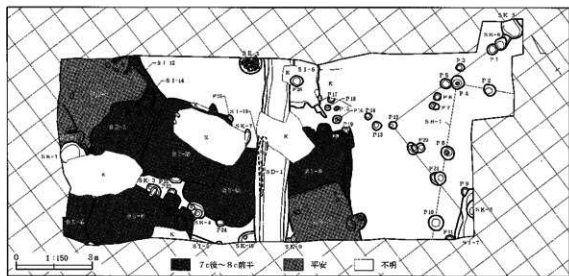
遺物名	番号	器別・形態	遺存	流量(cm)	器形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考	
SI-12	1	須恵器	1/4	(25.2)	厚みのある口縁で、ほぼ直線的に外反。口縁下に凸縁が一帯走る。ロクロ成形。外面下半にカキ目	精選。密な胎土	堅	灰褐色		
		一		(3.1)						
SI-14	1	須恵器	1/4	(10.0)	丸底。中央部は略平坦。底部～口縁はほぼ直線的に外反。ロクロ成形。ロクロ目はやや強め。下半は向って左方向に回転ケズリ	精選。白色微粒やや多	堅	暗緑灰色		
		一		(4.2)						
	2	土師器	1/4	10.9	10.9	器形ゆがむ。丸底。底部より屈曲して口縁に続く。口縁短かく内傾。口縁ヨコナダ、外面は弱い短略な部分物なケズリ	精選。角閃石少量	硬	質	茶褐色
SI-14	3	土師器	1/4	10.6	丸底。底部と口縁に横。口縁は外周側に立ち上がり、上位に段がつく。口縁ヨコナダ	精選。石灰微粒多	硬	質	黄褐色	
		一		3.3						
	4	土師器	1/4	9.0	丸底。底部と口縁の境に横。口縁は短かくわずかに内傾する。口縁ヨコナダ、底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。	硬	質	黄褐色	
		一		3.7						
SD-1	1	須恵器	1/4	10.2	丸底。底部～口縁は直線的に外反。ロクロ成形。ロクロ目は武部内面で強め。底部は向って右方向に回転ケズリ	精選。小レキ少量	硬	質	灰褐色	
		一		3.1						
P-26	1	須恵器	1/4	15.0	大型。埴形に近い。底部は直線的に外反。口縁はゆるやかに外周。ロクロ成形。ロクロ目弱い。回転後切り後高台粘付	やや粗い小レキ多	堅	灰褐色		
		一		5.4						
		一		8.5						
包含層	1	須恵器	破片	—	頸部片。2段の波状文の上下に2本の沈線が施される。内面はヨコナダ(ロクロ使用?)後部分的にユビナダ	精選。密な胎土	堅	灰褐色		
		一		—						
	2	土師器	1/4	13.6	やや扁平な丸底。底部から屈曲して口縁に続き、口縁ほぼ直立。口縁ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	茶褐色	
		一		3.5						
3	須恵器	1/4	—	やや内傾。腹部はゆるやかに内湾して立ち上がる。ロクロ成形。ロクロ目やや強め。武部外面は周辺に短略なケズリ、中央部無調整	精選。密な胎土。小レキ少量	堅	暗	暗灰色	内外に自然釉	
	一		(9.5)							
4	須恵器	破片	—	胴部下半部。外面は斜行のクタクキを格子状に施す。内面は同心円の当て具痕(青海波文)粘土接合部が内面で盛り上がる	精選。密な胎土。小レキ少量	堅	暗	灰褐色		
	一		—							
SX-1	1	土師器	1/4	9.8	器形ややゆがむ。丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	暗褐色	断面暗緑
		一		3.1						
	2	土師器	1/4	15.0	大型。埴形に近い。丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	暗褐色	断面やや暗緑
		一		4.6						
	3	土師器	1/4	12.7	器形ややゆがむ。丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく、やや内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	暗褐色	
		一		4.0						
	4	土師器	1/4	11.5	丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく、やや内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	暗褐色	底部外面に被熱痕
		一		3.6						
	5	土師器	1/4	13.1	丸底。底部より内湾して口縁に続き、口縁短かく内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面上半ヨコナダ、下半ナダ	精選。小レキ少量	硬	質	暗褐色	底部外面に黄色部(被熱痕か)
		一		4.0						
	6	土師器	1/4	9.5	小型。やや扁平な丸底。底部と口縁の境にゆるい横。口縁直線的に外反。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ヨコナダ	精選。角閃石少量	硬	質	茶褐色	
		一		2.7						
	7	土師器	1/4	9.6	小型。丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面強いケズリ、内面ナダ	精選。赤色微粒少量	硬	質	茶褐色	
一		2.8								
8	土師器	1/4	10.5	小型。丸底。底部と口縁の境にゆるい横。口縁直線的にやや内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。小レキ少量	硬	質	暗褐色		
	一		3.1							
9	土師器	1/4	11.2	やや扁平な丸底。底部と口縁の境に明確な横をもつ。口縁外周側に立ち上がる。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	暗褐色		
	一		3.2							
10	土師器	1/4	11.0	丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かくほぼ直立。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	茶褐色		
	一		3.5							
11	土師器	1/4	10.6	やや扁平な丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面ケズリ、内面ナダ	精選。角閃石少量	硬	質	茶褐色		
	一		3.2							
12	土師器	1/4	10.9	丸底。底部より屈曲して口縁に続き、口縁短かく内傾。口縁内外ヨコナダ。底部外面調整圧痕後ケズリ、内面ナダ	やや粗い角閃石少量	硬	質	茶褐色		
	一		3.1							
13	土師器	1/4	22.0	(5.5)	長胴鉢か。胴部の張りはない。口縁は肥厚したの字に屈曲。口縁部側面平坦。口縁ヨコナダ。底部外面ナメケズリ、内面ヘラナダ	精選。角閃石、赤色粘土多	硬	質	茶褐色	

IV まとめ

今回の調査では、古墳時代後期から中世に亘る遺構を検出した。この中で主体を占めるのは7c後半～8c代の住居跡で、ついで平安時代の住居跡である。住居跡群は、調査区北西部過半に集中しており、南東部は1軒の住居跡のほかはピット群や掘立柱建物跡の分布域になっている。北東部も住居跡の密な分布はないようで、井戸1基が検出されている。

遺物は、土師器環と土師器甕が多く、須恵器は少ない。須恵器では、蓋・坏・高坏・高台付坏・盤・瓶・甕、土師器では坏・甕を主体に甔・台付甕の破片などの破片のみみられる。その他、いわゆる「ロクロ土師器」として8号住居跡から土釜が出土している。鉄器は、SX-1で2点採取しているが、錆化が著しく器種は判明しない。石器はこも石、台石（あるいは磨石）などで、8号住居跡では雲母片岩が支脚として使われている。

遺構は重複が著しく、とくに8～10・12・14号住居跡、SX-1などでは、平面的にも上下においてもかなりの重複度である。そのためか、SX-1を除けば遺構の年代決定の決め手となる床面遺物が少なく、年代の判断には不安も残るが、おおむね7c後半代以降から8c前半代の遺構が主体を占めるようである。こうした密集度の高い集落のあり方と、周辺の生産跡との関連なども今後の課題として残されよう。

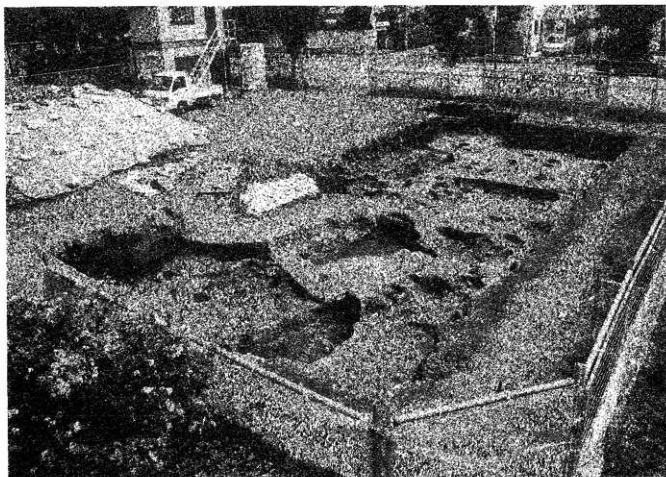


第19図 時期別遺構分布図

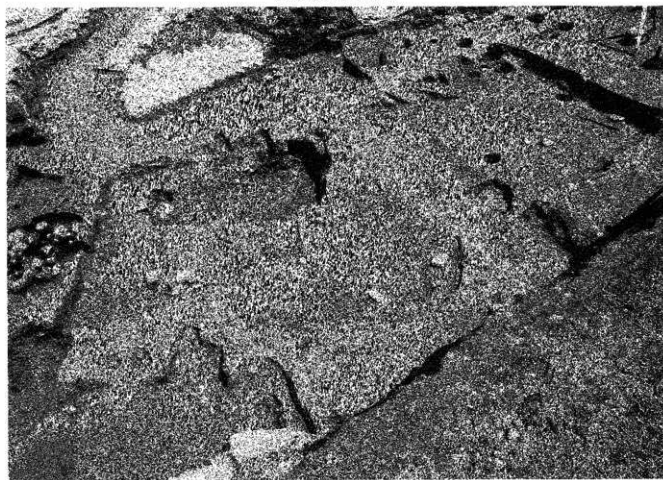
参考文献

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986「下佐野遺跡」『上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告 第6集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989「船橋遺跡」『上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告 第12集』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989「下佐野遺跡」『上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告 第11集』
- 高崎市遺跡調査会 1994「合賀野万福寺II遺跡発掘調査報告書」高崎市教育委員会
- 高崎市遺跡調査会 1999「寺尾館台遺跡・寺尾左近屋敷遺跡」高崎市遺跡調査会文化財調査報告書 第75集』
- 高崎市史編さん委員会 2000「新編 高崎市史 資料編2 原始古代II」高崎市
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2002「上佐野桶越遺跡」財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第300集』

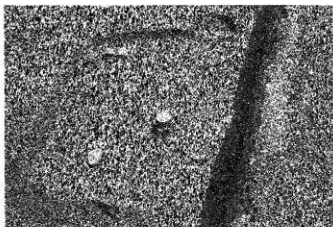
写 真 图 版



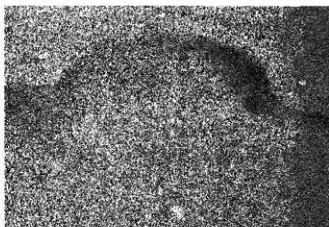
遺跡全景（北西より）



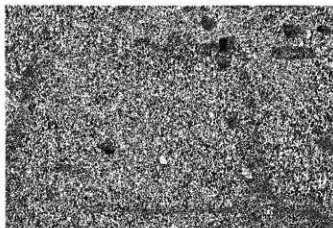
2・3・10・11号住居跡周辺（南西より）



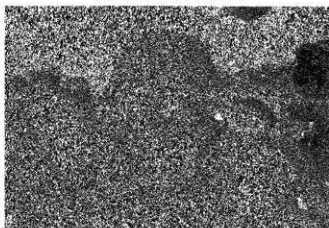
1号住居跡全景 (西より)



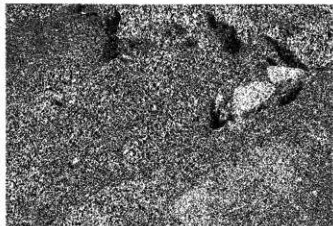
1号住居跡電全景 (西より)



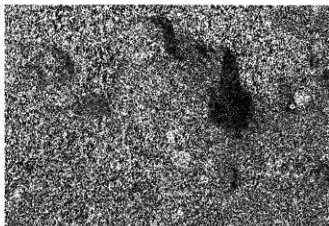
2号住居跡全景 (南西より)



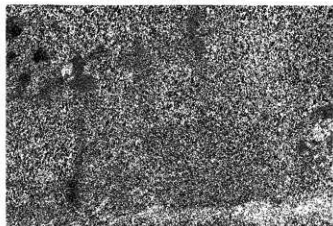
2号住居跡電全景 (南西より)



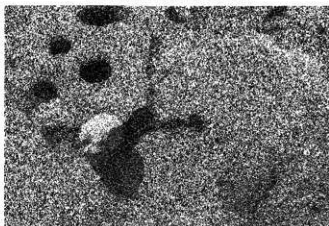
3号住居跡全景 (南西より)



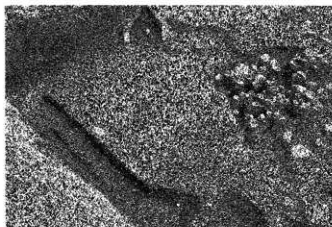
3号住居跡電全景 (南西より)



6号住居跡全景 (北東より)



6号住居跡電全景 (北より)



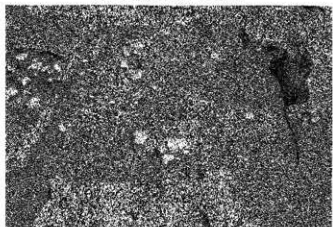
8号住居跡全景 (西より)



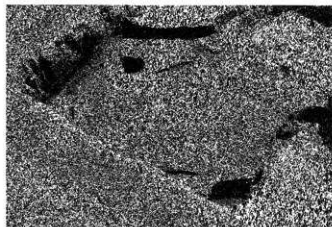
8号住居跡電線全景 (西より)



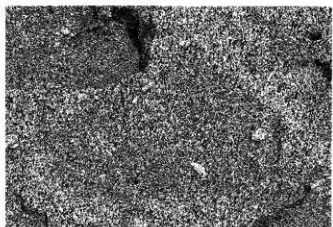
9号住居跡全景 (西より)



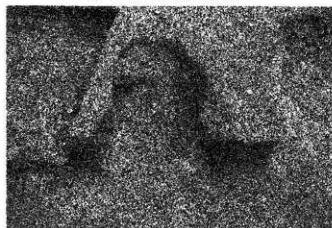
10号住居跡全景 (西より)



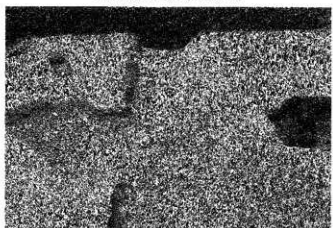
12・14号住居跡全景 (西より)



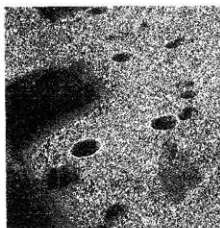
11号住居跡全景 (南西より)



14号住居跡電線全景 (西より)



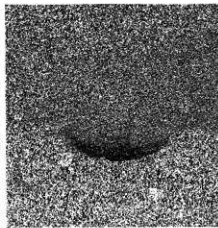
1号溝全景 (北東より)



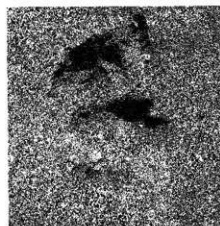
1号掘立柱建物跡 (東より)



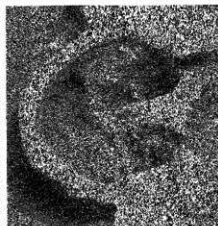
1号土坑 (南東より)



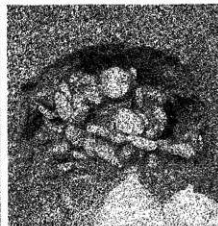
2号土坑 (北西より)



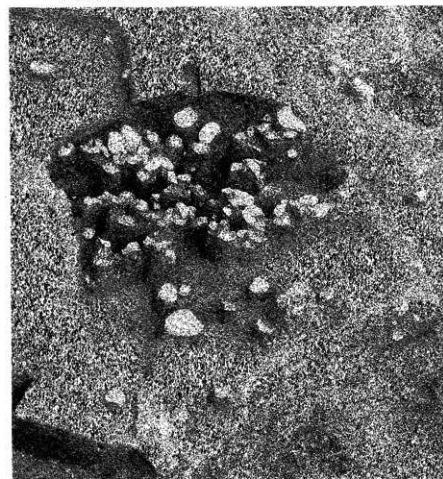
3号土坑 (北西より)



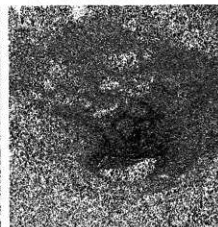
4号土坑 (北より)



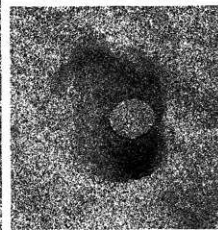
井戸 (露出上状況) (北東より)



性格不明遺構 (SX-1号跡) (南西より)



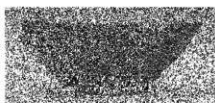
井戸 (土層断面) (南西より)



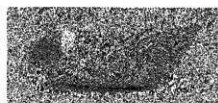
26号ピット (南西より)



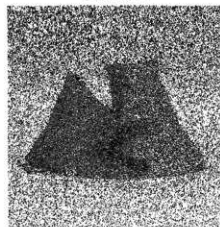
1号住居跡1



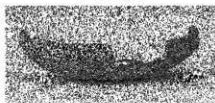
1号住居跡2



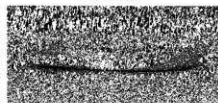
2号住居跡1



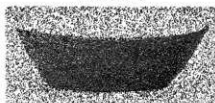
2号住居跡2



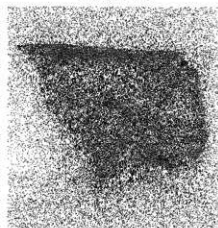
2号住居跡3



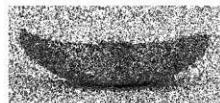
2号住居跡4



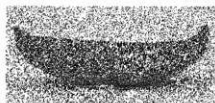
3号住居跡1



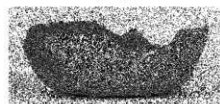
3号住居跡2



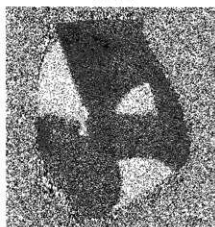
3号住居跡3



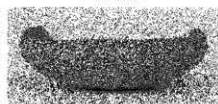
3号住居跡4



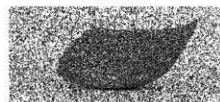
8号住居跡1



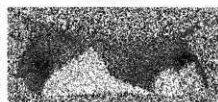
8号住居跡2



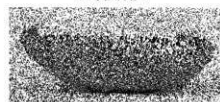
10号住居跡1



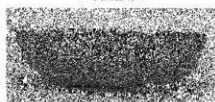
14号住居跡1



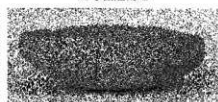
11号住居跡2



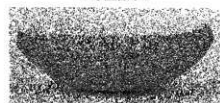
14号住居跡2



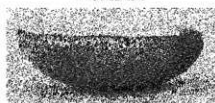
14号住居跡3



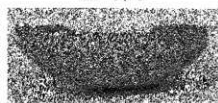
SX-1、1



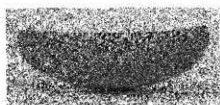
SX-1、2



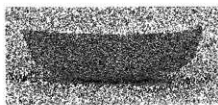
SX-1、3



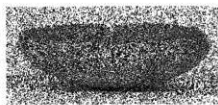
SX-1、4



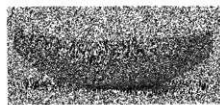
SX-1, 5



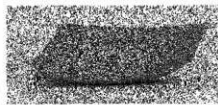
SX-1, 6



SX-1, 7



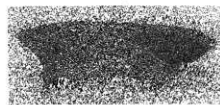
SX-1, 8



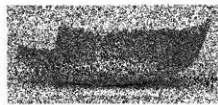
SX-1, 9



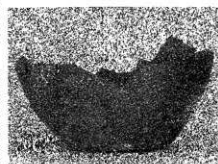
包含层 3



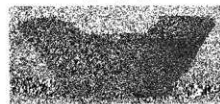
SX-1, 10



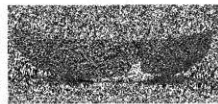
SD-1



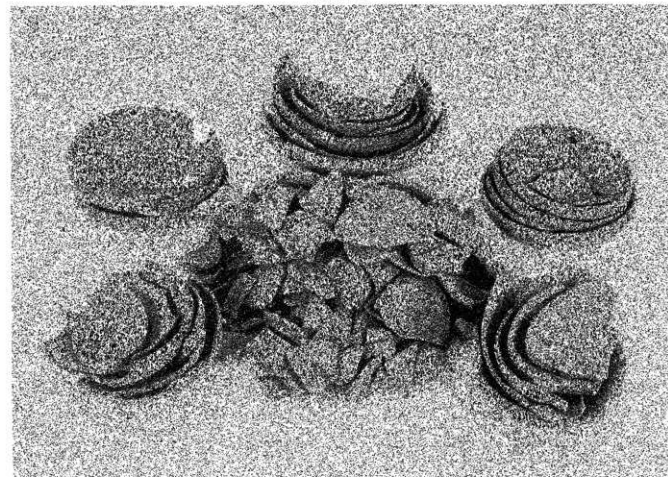
包含层 5



P-26



包含层 4



SX-1 出土铜器残片

報告書抄録

フリガナ	シンゴカンイセキ							
署名	新後閑遺跡							
副書名	マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書 第237集							
編著者名	宇佐美義春							
編集機関	高崎市教育委員会							
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1							
発行年月日	2009(平成21)年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
新後閑遺跡	高崎市新後閑 町4番23	102020	424	36° 18' 30"	139° 00' 59"	2008.08.05 } 2008.09.12	約189.8㎡	マンション 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
新後閑遺跡	集落址	古墳時代 奈良・平安時代 中世		竪穴住居跡14 掘立柱建物跡1 土坑9 溝1 井戸1 ピット22 性格不明遺構1		土師器 (壺・坏等) 須恵器 (壺・坏・盤等)		7世紀に始まる集 落跡

新後閑遺跡

— マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成21年3月27日 印刷

平成21年3月31日 発行

編集・発行／高崎市教育委員会
群馬県高崎市高松町35番地1
TEL 027 321 1292

印刷・製本／朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67
TEL 027-251-1212